

新しい活動方法を模索

応援団長 渋谷 宏之郎

現在応援団は総団員数七名、三月まではほとんど私一人でした。今応援団は今までの形から新しい形へと変わる過渡期にあると思います。昭和から平成の初め頃までは、応援団は学校の花形であったと聞いていますが、現在は当時のような勢いはなく、伝統を継承することが困難な状況であり存在感がない状況です。いろいろ考えて、

応援団の伝統として受け継いできた型を継承しながらも、時代の変化に対応して行く必要があるのではない

応援団

かという疑問に行き着きました。しかし、それには何かから手をつけるべきかわかりませんでした。それで、応援活動を学ぶため、盛岡第一高等学校に手紙を送りアドバイスをもらったり、東京大学応援部物語という小説を読んで応援団とはどうあるべきかを学んだり、実際に東北大学学友会応援団の方々に指導をしてもりました。

また、秋高音頭の習得のためOBの方にも指導していただきました。手探りの状態ながら、昨年度は陸上、硬式野球、バレー、ラグビーの試合の応援をしました。このよう

なことを行う上で、たくさんの方に応援いただき、生徒会や先生方に助けていただくことが幾度もあり、本当に感謝しています。

応援団の理念は「部活動を



新入生全員を体育館に集めて 応援団員が応援歌を指導

精一杯応援すること、頑張る人を応援すること」です。そのためには応援団自身も頑張る存在でなければなりません。その頑張りの形は花形のOBの方々の頃とはだいぶ違ったものかもしれません。しかし、

一生懸命に応援する心には変わりありません。だから、これからも現在ある型を見直しながらも活発に活動していきたいと思えます。これからも応援団を応援よろしくお願います。

応援歌練習で 団員が大活躍

応援団顧問 草 階 健 樹

苦境に立たされている応援団ではありますが、四月に行われた新入生の応援歌練習では大いに活躍しました。

ここ数年はクラス毎ではなく、新入生全員を体育館に集めて校歌を始めとする応援歌を指導しています。三百人以上の新入生を前に普段は温厚

また、壁は木目を生かした、自然な雰囲気を出している。

同窓会からは、会員の皆様からご協力いただいている会費の基金から百五十万円を寄付し、音響設備一式を寄贈しました。それによってスピーカーも以前の二個から前後・横二個ずつ計六個と、増設がなされています。

手形中台の校舎も教育環境を整え、在校生徒に、そして本年以降の卒業生に、また新たな思い出の場を提供することとなった。



秋田高校

新体育館が完成

同窓会音響設備一式を寄贈

昨年十二月十八日、新体育館が受け渡され、一月八日披露され、生徒の部活動や儀式等に使用されることになった。

旧体育館は昭和三十六年に建てられ、四十八年間の長きにわたり利用された。その間、日本海中部地震や豪雪・台風にも耐え切った。建て替えの理由は、当時の耐震基準では

問題がなかったものの、現在の基準に照らし合わせると、改修が必要とされるレベル4の診断を受けており、安全な教育環境を整えるため新築となった。旧体育館は一月八日から取り壊され、現在は更地になっている。新体育館は縦が約十層長くなって、広さは百二十㎡近く大きくなった。

体育館全体が一瞬のうちに沈黙に包まれ、皆が反省させられた様子でした。素晴らしい伝統が受け継がれていることを実感した瞬間でした。今後はもっと団員を増やし、活動の幅を広げていきたいと考えております。同窓生の方々の御協力、御指導をいただければ幸いに存じます。